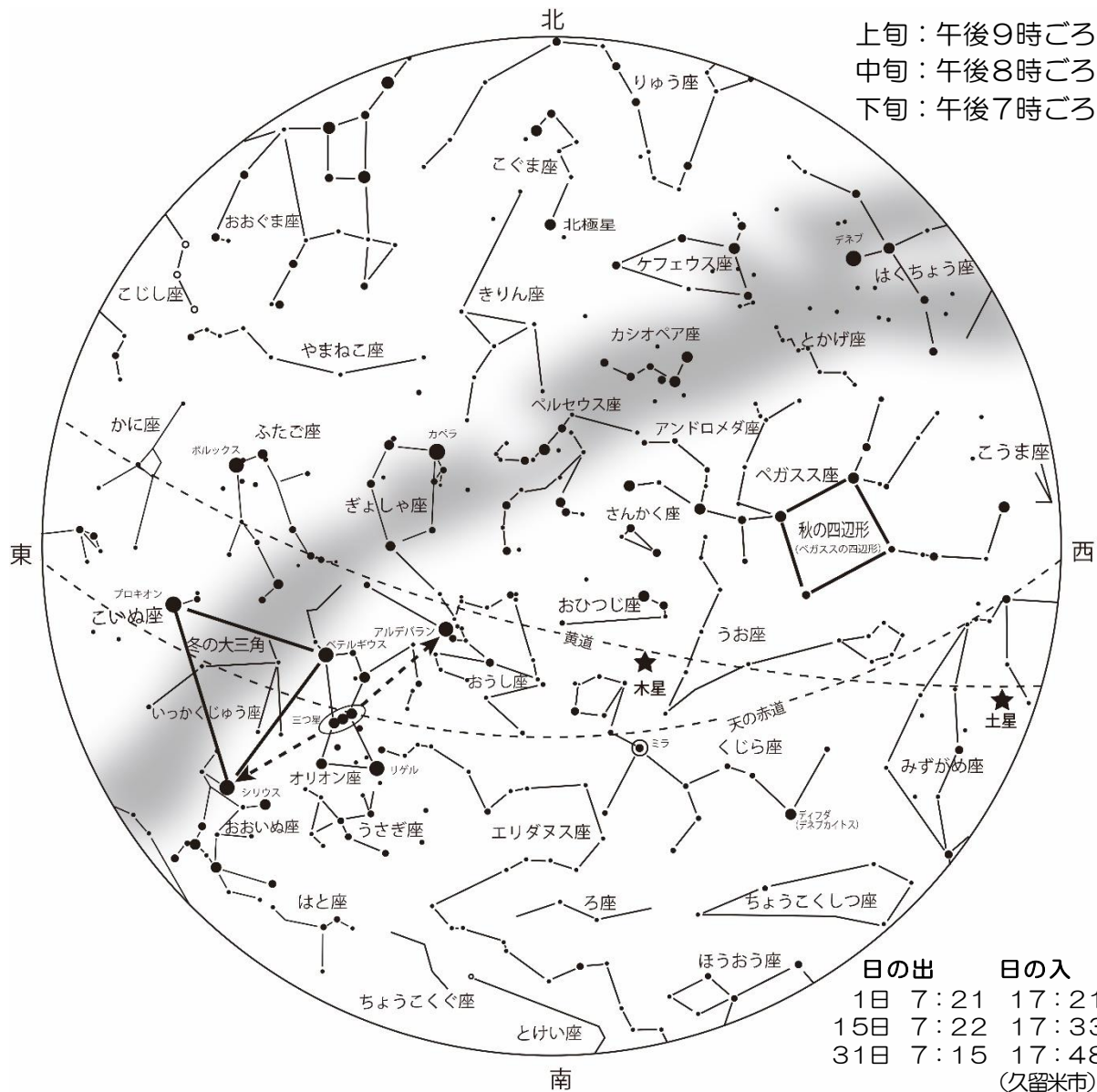


令和6年 1月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



上旬：午後9時ごろ
中旬：午後8時ごろ
下旬：午後7時ごろ

★1月の星空案内

新年明けましておめでとうございます。冬の星空は、1年のうちで1等星が最も多く、星座を見つけやすくなります。また、空気中の水蒸気が少なく空気が澄んでいるため星が一番きれいに見えます。

1月の冬の星座探しは、**オリオン座**を見つけるところからスタートです。オリオン座は等間隔に並んだ3つの星“三つ星”と、それを取り囲む明るい4つの星がつくる砂時計のような星の並びを目印に見つけることができます。オリオン座の“三つ星”を北西（右上）にのぼしていくと、ここには1等星の**アルデバラン**が見つかります。このアルデバランを目印に見つけることができる星座が**おうし座**です。次に、オリオン座の“三つ星”を南東（左下）にのぼしていくと、ここには1等星の**シリウス**が見つかります。シリウスは星座を形作る星の中で最も明るい星です。このシリウスを目印に見つけることができる星座が**おおいて座**です。そして、シリウスから目線を北東（左上）に移すと、1等星の**プロキオン**が見つかります。このプロキオンを目印に見つけることができる星座が**こいぬ座**です。オリオン座のベテルギウス、おおいて座のシリウス、こいぬ座のプロキオンをむすんでできる三角形の星の並びは『**冬の三大角**』とよばれ、街明かりのあるところでも見つけることができます。

ぜひ、1月は暖かい服装で冬の星座を探してみてください。

【見ごろの惑星】（☆マークは、今月のおすすめです。）

- 水星（-0.1等前後）：へびつかい座→いて座付近 観望に適さない。
- ☆金星（-4.0等前後）：てんびん座→へびつかい座 日の出前、南東の空でひととき明るく輝く。付近
- 火星（1.4等前後）：へびつかい→いて座付近 観望に適さない。
- ☆木星（-2.5等前後）：おひつじ座付近 日の入り後、南西の空で明るく輝く。
- ☆土星（1.0等前後）：みずがめ座付近 日の入り後、西南西の低空で輝く。

2024年 注目の天文現象(まとめ)

- 4月 9日：皆既日食（日本では見るできない）
- 4月15日：月・火星・土星が集合（見ごろは午前3時ごろ）
- 4月21日：ポン・ブルックス彗星（見ごろは3月27日～4月10日の日没後）
- 8月12日：ペルセウス座流星群（見ごろは12日の午後11時ごろ～13日の明け方、好条件）
- 8月15日：木星と火星の大接近（午前3時ごろ、日本では最接近を見ることはできない）
- 9月17日：中秋の名月（十五夜）
- 9月28日：紫金山・アトラス彗星（見ごろは10月1日～3日の明け方）
- 10月 3日：金環日食（日本では見るできない）
- 12月14日：ふたご座流星群（見ごろは13日深夜から14日未明）

2024年は、4月にポン・ブルックス彗星、9月に紫金山・アトラス彗星の2つの彗星が最も太陽に近づき、肉眼で観測できるほど明るくなることが予想されているため話題になっています。紫金山・アトラス彗星は2023年1月9日に発見された新彗星で、最大で-5等級（金星が最も明るく輝くころの等級）まで明るくなり、長大な尾を見せてくれると期待されています。初めてオールトの雲から太陽近くにやってくる彗星だと考えられており、今年も空を見上げる楽しみに心が躍ります。

日の出	日の入
1日 7:21	17:21
15日 7:22	17:33
31日 7:15	17:48

(久留米市)

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
4	木	しぶんぎ座流星群が極大（18時頃） 【条件悪】 ● 下弦（12:31）	12	金	水星が西方最大離角
11	木	● 新月（20:58）	18	土	● 上弦（12:53）
			26	金	○ 満月（02:54）